

図表目次	6
------	---

序章

1. 研究の意義と目的	9
2. 研究の視点	12
3. 先行研究の検討	13
3-1. 農村社会の変容をめぐる言説	14
3-2. 「ムラの国際結婚」に関する言説——ステレオタイプ形成の経緯——	19
3-2-1. 「ムラの国際結婚」に関する初期の研究	26
3-2-2. 先行研究がとらえた「ムラの国際結婚の問題点」	27
4. 理論的枠組、資料および手順	33
4-1. 分析の枠組み：目黒依子の社会的ネットワーク論	34
4-2. 分析資料	36
5. 用語の説明	39
6. 論文の構成	42

第1章 「ムラの国際結婚」の歴史的・社会的背景

1. はじめに	45
2. 「女性」の政治的利用をめぐる歴史的記憶	46
2-1. 「戦争花嫁」、「ジャパゆきさん」、「農村花嫁」	48
3. 国際結婚の推移	52
3-1. 外国人登録者の増加および国際結婚の推移	52
3-2. 「韓国・朝鮮」というカテゴリー	58
4. 国際結婚の増加と「ムラの国際結婚」	60
5. 日本農村の社会的再生産の危機	67
6. 結婚移住女性の出身国の状況	69
6-1. 韓国	70
6-2. フィリピン	72
6-3. 中国	74
7. 外国人の増加と地方自治体の国際化施策	75
7-1. 80年代半ばまでの国際化施策	76
7-2. 80年代後半以降の国際化施策	78
7-3. 行政主導による「ムラの国際結婚」支援の先例——いわゆる「最上方式」	83
7-4. 自治体による結婚支援の現状——秋田県上小阿仁村の事例	85
8. まとめ	86

第2章 実態調査地域の特徴 —新潟県南魚沼市の概要と外国籍住民の存在—

1.はじめに	91
2.南魚沼市の概要	93
2-1.産業構造の変化と女性	97
2-2.政治構造の変化と女性	98
2-3.農村社会の持つ構造的開放性	101
3.増加する外国籍住民とその実態	104
4.結婚移住女性の現況	110

第3章 結婚移住女性の適応と受容における諸問題 —市民アンケート調査とその結果分析—

1.本研究で実施した実態調査	115
1-1.アンケート調査の目的と意義	117
1-2.回答者の属性とその特徴	119
2.「国際結婚」に対する市民の意識	122
2-1.現状と傾向	122
2-2.地域の国際交流活動への参加度	131
2-3.外国人との交流意識	133
3.結婚移住女性の社会的状況	136
3-1.結婚移住女性のプロフィール	137
3-2.日本語の習得と子育てを通じた社会的ネットワークの形成	142
3-3.就労状況と動機	148
4.日本人市民と結婚移住女性との意識ギャップ	149
4-1.外国籍住民数の今後の予想	149
4-2.多文化共生の地域づくりに必要な行政施策	150
4-3.外国人に対する偏見差別意識	153
4-3-1.佐藤裕(2005)の「差別論」	153
4-3-2.結婚移住女性と日本人との外国人に対する偏見差別の認知の相違	155
5.まとめ	158

第4章 結婚移住女性の適応過程のダイナミクス —国際結婚当事者の面接調査とその結果分析—

1.はじめに	161
2.結婚移住女性およびその家族への聞き取り調査	162
2-1.調査の目的	162
2-2.調査対象者および調査方法	162

3. 調査対象者のプロフィール	167
Ko-1: 来日1987年、来日時40歳、韓国	168
Ko-2: 来日1987年、来日時26歳、韓国	168
Ko-3: 来日1989年、結婚1996年、結婚時31歳、韓国	169
Sr-1: 来日1997年、来日時20歳、スリランカ	170
Ph-1: 来日2000年、来日時21歳、2005年再婚、フィリピン	170
Ph-2(夫): 40代、フィリピン女性と2000年に結婚、2004年離婚	171
Ph-3: 40代、1997年結婚、フィリピン	171
Ch-1: 来日1997年、来日時42歳、中国	172
Ch-2: 来日2001年、来日時34歳、中国	173
Ch-3: 来日2003年、再婚、来日時43歳、中国	173
Ch-4: 来日2005年、再婚、来日時33歳、中国	174
Th-1: 1991年再婚、結婚時31歳、タイ	175
Th-2: 来日1996年、来日時34歳、タイ	176
Br-1: 来日1981年、来日時19歳、ブルネイ	177
4. 業者仲介による国際結婚の実情	178
4-1.5組の事例	179
4-2. 調査地における仲介業者	180
4-3. 仲介業者W社の事例	185
4-4. 法廷通訳者が語る業者仲介結婚	186
4-5. 結婚仲介の市場化から見た「ムラの国際結婚」	187
5. 結婚移住女性の異文化適応過程	190
5-1. 結婚移住女性と地域社会	191
5-1-1. 来日時期とライフイベント	193
5-1-2. 地域社会への参入障壁—差別・偏見	196
5-2. 家族関係の変化	197
5-2-1. 夫との関係	200
5-2-2. 家庭内地位の変化	202
5-2-3. 規範の葛藤・交渉	204
5-3. 友人関係	206
5-4. 就労関係	207
5-4-1. 専業主婦願望	208
5-4-2. 就労とアイデンティティの再構築	209
5-4-3. 里帰りの意味	209
5-4-4. 起業	209
6. 将来構想と母国との関係	210
7. まとめ	212

第5章 農村社会における異文化受容力の形成

—南魚沼地域の現状と展望—

1.はじめに	215
2.文化触変モデル	216
3.日本社会の多文化化と農村社会の変化	218
4.農村社会の変容と将来展望	220
5.南魚沼市における国際交流の現状	224
5-1.2つの国際化	224
5-2.内なる国際化の担い手	227
6.農村社会における外国人支援組織	231
6-1.市民組織「夢つくす」の活動	232
6-2.「夢つくす」の会員構成と活動の多様性	234
6-3.日本語教室の開設	236
6-4.日本語教室の現状と課題	238
7.まとめ	241

第6章 むすびにかえて

1.「農村花嫁」に対するステレオタイプなイメージの見直し	244
1-1.多様な結婚移住女性の存在	245
1-2.日本人市民と結婚移住女性との意識ギャップ	245
1-3.「複合的な不利」の重なりから見る「ムラの国際結婚」	246
2.農村社会の将来展望と結婚移住女性の存在	246
2-1.適応過程のダイナミズムとトランスナショナルなネットワーク	247
2-2.グローバル化時代の農村コミュニティと「越境プレイヤー」	247
2-3.社会関係資本から見る農村の可能性	248
3.今後の課題	248

あとがき251

参考文献 254

索引 264